正一位狐国稲荷神社

漫画・アニメの原作小説

音川伊奈利

目次

伏見稲荷大社の物語 **90** 話記念 小説 正一位狐国稲荷神社宮司と巫女狐の禁断の恋　**1** 話 1
正一位狐国稲荷神社 **2** 話「向日神社はパンダ狐、巫女狐、歌舞伎狐の聖地」伏見稲荷大社の物語 **91** 話 5
正一位狐国稲荷神社 **3** 話 向日神社と卑弥呼の墓を守る卑弥呼狐たち伏見稲荷大社の物語 **92** 話 9
正一位狐国稲荷神社 **4** 話パンダキツネ、歌舞伎キツネ嘉智子皇后に芸を披露伏見稲荷大社の物語 **93** 話 13
正一位狐国稲荷神社 **5** 話 狐と人間の和解で正一位向日神社建立へ伏見稲荷大社の物語 **94** 話 17
正一位狐国稲荷神社 **6** 話 団十郎キツネ歌舞伎一座を旗揚げ嘉智子皇后向日神社竣工式へ 伏見稲荷大社の物語 **85** 話 22
正一位狐国稲荷神社 **7** 話 従四位祈祷師卑弥呼狐が「薬子の変」を暴く伏見稲荷大社の物語　**96** 話 26
正一位狐国稲荷神社 **8** 話 御嬢狐団十郎狐と結婚狐の嫁入り行列は宮中で 伏見稲荷大社の物語 **97** 話 30
正一位狐国稲荷神社 **9** 話狐の月光と人間の貴族の間に生まれた「かぐや姫」・新竹取物語伏見稲荷大社の物語 **98** 話 35

伏見稲荷大社の物語 90 話記念 小説 正一位狐国稲荷神社宮司と巫女狐の禁断の恋　1 話

伏見稲荷大社の物語 90 話記念 小説 正一位狐国稲荷神社宮司と巫女狐の禁断の恋

東山には人間がお詣りする稲荷神社があるが、この稲荷神社から真西の西山には狐が詣る正一位狐国稲荷神社 (現・元稲荷社) がある。本家の稲荷神社の社殿の土地やお山もこの稲荷山を境内とする藤森神社からお借りしているものだが、この狐国稲荷神社も向日神社からの借り物になる。神社の北側には卑弥呼の時代の全長 94 メーターで前方後方墳の元稲荷古墳がある。神社の地下には社務所や神楽殿と通路が張り巡らせていてこの古墳の石室には狐国稲荷神社の祭神の「宇迦之御魂神」が祀られている。つまり、地面から出ている神社の境内は小ぶりだが地下は宮司や神職、巫女狐ら約 100 匹が住む大所帯の神社になる。

この狐国稲荷神社は全国に展開している狐稲荷神社の総本宮で日本国に住むアカギツネ、クロギツネ、ギンギツネ、シロギツネの共同の神社になる。宮司は世襲制で代々アカギツネの 8 代目の源八狐が宮司を勤めている。その他の神職や巫女狐はそれぞれの狐の種族の稲荷神社から派遣されて 2 年間の修行を終えて神職及び巫女の資格を得てその狐の種族の稲荷神社で神職になる。

巫女の白菊の種族はシロギツネで 15 歳で修行のために関東平野から単身で総本宮に入り修行 1 年目でお神楽の巫女舞の名人と龍笛の名人となり宮司の源八狐からも褒められていた。白菊は色が白いのは当然だが背が高くてそれに鼻筋が通ったキツネ顔の超美人で宮司は修行中の白菊に恋をしていたが、それは禁断の恋で狐界では種族の違う狐との恋愛などは先祖代々禁止されてきた。

これは個々の狐の種族の種を守り子孫繁栄するには当然のことで日本国には 4 種類の狐族が生息しているが、これは共通の課題で子供が産まれると真っ先に教育されるのがこの種族を守るという民族教育になる。しかしながら長い歴史の中では種族の違う狐同

士が愛し合い子供を授かる事例もあったが、それが見つかるとその子供は即日殺されることもあった。

宮司の仕事は神社の繁栄と種族の揉め事の仲裁などの裁判官の役割もしているのでこれらの異種族の恋愛問題も解決していた。それら相談に来た狐に適確なアドバイスをしていた。その相談の例は、クロギツネの雄とシロギツネの雌との恋愛だが、宮司は
そのクロギツネに、
「クロギツネとシロギツネの間に産まれた狐は白黒の模様でパンダ狐になる。そのパンダ狐とアカギツネの間に産まれた子供は三毛ギツネになる。つまり、混血雑種及びハーフ狐になるが、こうなれば種の保存どころか性格も狩りの仕方も変わりどの狐の純血も破壊されて神から天罰が降る」
この宮司の意見に対してクロギツネは、
「し、しかし、同じイヌ科の犬は日本どころか世界中から輸入されて異種交配がされても犬界からはなんら問題が提起されてはいませんが...?」
「たしかに犬も猫も人間の手で人間に都合のいいように血を遊ばれているが、それは犬も猫も人間から餌を貰わなくては生きてはいけないからで我々狐は人間とは一線を画しても生きてはいける」
「そうですか、それなら私はシロギツネとの愛を諦めます」

こうして宮司は愛し合っている狐を無下にも引き裂いてきたが、その考えは間違いではないのでこれに対してはなんの反省もいていないばかりかこの宮司の裁定を狐 4 種族も最高裁判所の判例として長年受け継ぎまだ表向きには雑種キツネは存在していなかった。ただ、京の都ではそうだが、地方では異種交配がなされていたが、これら産まれた雑種キツネは親から引き離されたり、または夫婦と小狐共々越後の国の佐渡ヶ島に流されていた。

狐は夜行性のために昼間は土を掘った穴で寝ている。そして夜は野ネズミやモグラ、それにウサギの狩りをしているが、この狐国稲荷神社の狐の参拝者も夜間で神楽殿での巫女狐の神楽舞と雅楽の演奏も毎夜数回演じられる。宮司の源八狐はもはや宮司の立場ではなく 16 歳の白菊の舞を一人の雄キツネとして観覧していた。踊っている白菊も参拝者のために踊っているのではなく心の中では宮司さんを意識していたのでまだ幼い白菊は出来るだけ女の魅力の視線をテレパシーに変えて宮司に発信していたが、そこは以心伝心で源八狐にも十分伝わっていた。

しかし、宮司はアカギツネ、白菊はシロギツネでこの狐界では禁断の恋でそれ以上のことはお互い自粛していたが、自粛すれはするほど恋しくなるのが恋というものになる。それから半年白菊は総本宮での 2 年間の修行を終え関東平野に帰るのは三ヶ月後になっ

ていた。白菊が巫女の仕事が終わるのが早朝の 4 時になる。それからまだ真っ暗な地上の向日神社の外拝殿で白菊得意の龍笛の練習を毎日のようにしていた。

外拝殿から北 200 メーターには小高い丘の元稲荷古墳があるが、宮司の源八はこの丘の頂上から外拝殿を見ながら白菊が吹く龍笛の音色を楽しんでいた。狐は耳と眼が良く、それに嗅覚は人間の千倍～1 万倍もあり月明かりだけでも白菊の巫女姿や匂いを楽しめる。これは白菊も同じで北風の時は宮司の匂いが白菊に、南風の時は白菊の匂いが宮司まで届く。白菊が演奏している龍笛の音色は「立ち昇る龍の鳴き声」と例えられて龍笛の名前がある。

宮司が恋しい白菊の姿を古墳から見ていたが、それが 2 ヶ月も続いて 1 ヶ月後の 2 月 1 日には総本宮の修行も終わり白菊は生まれ故郷の関東平野に帰ることになってはいたが、これを止めることが出来ないことは宮司が一番良く知っていたから白菊に近づくことさえ自粛していた。

最後の夜の 1 月 31 日、この日は南風が強くて白菊の笛を吹く息づかいまで風に乗って宮司の鼻まで運ばれて来た。ところが白菊のいつもの匂いより悩ましいフエロモンの匂いが宮司の鼻から入り脳を強烈に刺激していた。この狐の発情期は 1 月から 3 月でその発情する日数は 1 日から 3 日しかなくこの日以外は雄を受け入れず妊娠もしなかった。その日がたまたま白菊の発情の初日になったので宮司は白菊のフエロモンに翻弄された脳は理性を忘れて古墳の坂を転がる様に駆け抜けて向日神社の外拝殿に一足飛びで駆け上がり白菊を抱き寄せていた。

白菊は抵抗して、
「宮司さん、それは絶対にダメです～私たちは狐界の掟を破った大罪人として佐渡ヶ島に流されます」
「私は白菊と 2 人で佐渡ヶ島に流されるのではなく白菊との新婚旅行として佐渡ヶ島に行く決意をした。白菊...私と一緒に佐渡ヶ島で家庭を持とう」
「嬉しい～私は宮司さまとなら鬼ヶ島でも八丈島でも付いて行きます」

こうして愛し合う 2 匹は愛の交尾を終えた後に宮司は白菊に、
「実は私が裁定して佐渡ヶ島に島流しした狐たちはどうしているかと気になって部下に調査を命じたが、その調査報告を読むと佐渡ヶ島の狐は毛の色や民族の違いなんかの差別や偏見もなく自由に恋愛をして子供を育てているという。そのせいかパンダ狐や三毛狐に四毛狐、紅白狐は珍しくもなく、中にはヒョウ柄やトラ柄までいるそうだ。生活は人間が金の採掘のために掘って廃坑になった横穴に住み夏は涼しく冬は暖かいそうだ。そ

れに農民や漁民とも共存共栄して調査した狐は佐渡ヶ島は狐にとってはパラダイスになると言っていた。私はこの佐渡ヶ島に「正一位佐渡ヶ島稲荷神社」を建立して宮司になる、白菊は巫女として私を助けてほしい」

宮司の源八は 25 歳、白菊は 17 歳の 2 人は佐渡ヶ島までの 161 里 (約 644 キロ) の新婚旅行に出かけたが、狐界のトップが絶対あってはならない異種族との駆け落ちに若い狐たちは大いに喜び異種狐との交際が大ブームになったそうな。

(おわり)

この小説を漫画の原作として描いてくれる漫画家さんを募集しています。

正一位狐国稲荷神社 2 話「向日神社はパンダ狐、巫女狐、歌舞伎狐の聖地」伏見稲荷大社の物語 91 話

正一位狐国稲荷神社 2 話「向日神社はパンダ狐、巫女狐、歌舞伎狐の聖地」伏見稲荷大社の物語 91 話

狐国稲荷神社の 8 代目宮司の源八はアカギツネであったが、異種のシロギツネで巫女狐の白菊を好きになり源八は宮司の座を投げ捨てて 2 人で手に手を取って佐渡島へ駆け落ちしてしまった。この狐国にはアカギツネ、クロギツネ、ギンギツネ、シロギツネの 4 種族が生息しているが、古代から個々の種を守るために雑種や混血は絶対許されない鉄の掟だったが、これらを無視して狐国のトップで裁判官でもある宮司が自ら破ってしまった。

しかし、狐国の決まりでは狐国稲荷神社の宮司は世襲制でやむなく 8 代目宮司源八の弟でまだ 22 歳の源治が 9 代目源八を襲名した。ただ、この 9 代目源八もアカギツネでありながらまさか兄が白菊と駆け落ちするとは夢にも思わず同じ巫女狐でギンギツネの紀香狐と隠れて交際をしていた。ただ、狐の発情期は年に 1 回で紀香狐はまだ発情はしていないので子供を宿していないため新源八宮司は紀香狐に別れを告げるために向日神社の外拝殿に呼び出していた。

源八は紀香に、
「紀香も知っていると思うが、俺は宮司になって狐国稲荷神社の発展と狐界 4 種族の子孫繁栄を祈ることになった」
「それは知っているけど私たちにどう言う関係があるの?」
「いやいや、お前はギンギツネで俺はアカギツネになる...つ、つまり...宮司と巫女としての関係だけで、これからはこういうデートは出来なくなる」
「あら、私をもて遊んだだけなの?」
「いや〜それは人聞きが悪い、俺はまだお前と交尾さえしていないからもて遊んだとは言えない」
「あらら、女はネ...躰を持て遊ばられるより心を持て遊ばれる方が辛いし傷つくのよ」
「し、しかし、狐界にはルールというのがあって異種との恋愛は絶対的タブーだと言うのはお前も知っているはずだ!」

「そう、それならこの続きは明日のこの時間にここに来て」
　紀香は自分自身の発情期が明日にでも来ることを察知しているので源八を紀香のフエロモンで誘惑することを考えていた。それは目の前に宮司の正妻で全国狐界のトップのファストレデイという餌がぶら下がっていたからだ。

　明くる日の夕方から臨時の狐国の評議会が始まった。これは 4 種族から選ばれた評議員の男女 2 名と宮司の 9 名で構成されてるので人間の議会とは違って男女差別はない。この日の議題は先代の 8 代目の宮司が異種狐との駆け落ちから若い狐たちがこれを見習い異種狐との交際が堂々始まり風紀が乱れている現状をどうするかの相談だった。

　まずギンギツネの男狐の評議員が、
「今年も女狐の発情期が一斉に始まってもう 30 匹以上が異種狐の子供を腹んでいるが、産まれて来る赤ん坊は女狐一匹につき平均 3 匹で合計 90 匹が混血雑種になるがこの産まれた赤ん坊、それにそのカップルの処置はどうするのか宮司に聞きたい」
　宮司は、
「まず、私の兄が狐国の憲法を破り駆け落ちしたことを皆様にお詫びいたします。この異種狐との禁断の恋が若者に受けたのか?、異種狐の恋愛が一つのブームになったことも事実で大変申し訳なく思っています」
　その質問をしたギンギツネは、
「いやいや、宮司と 8 代目とは狐格が違うのでそんなに謝らなくてもいいが、問題はこれから産まれてくる混血雑種狐を認めるのか?それとも両親ともども佐渡島に流すのかの問題を今夜は解決したい」
　そこでクロギツネの女狐が、
「生まれてくる赤ちゃんにはなんの罪も責任もありません。私はもう日本国に生息する狐は北海道のキタキツネを除いた本土に生息する 4 種族の狐を一つの民族として認めればいいと思います」

　そこで宮司は、
「そか、もう異種交配で生まれた狐を混血や雑種と差別しないで一つの民族にすればこの問題はすべて解決する。その単一民族の名前を本土に生息するから「ホンドキツネ」にしたいが、決を取りたい」
　これは全種族が賛成して日本の狐の正式名称は「ホンドキツネ」となった。

　評議会が終わったのが午前 1 時だが、それから 2 時間もしないうちにこの評議会で決められた事柄が狐国稲荷神社の地下から出て西山に生息する狐たちに伝わっていた。たまたま異種族の狐が好きになりお腹に赤ちゃんがいる約 30 匹の女狐は佐渡島に流されると心底心配していたが、9 代目の宮司源八のおかげで命拾いしたと西山の狐たちが神社

に三々五々集まり宮司にお礼を一言言いたいと集まり神社の裏にある穴の正門で待ち構えていた。

　ただ、宮司自身が異種族のギンギツネで巫女狐の紀香と付き合っていたので罰が悪くて神社から外に出ることを拒んでいた。しかし、紀香とは午前 4 時に外拝殿で待ち合わせしていたのでやむなく穴から出てきたが、お礼を言いたい狐たちに囲まれていた。そして狐たちは口を揃えて宮司に、
「宮司さん～ありがとう～」と言われるだろうと思っていたが、実際は、
「宮司さん～おめでとう～紀香を幸せにして下さい、宜しくお願いします」だった。

　宮司がなんのこっちやと思っていると目の前に紀香が現れてた。そして、
「宮司さん、ごめんなさい...私は向日神社の外拝殿で宮司さんを待っていたが、神社の前がザワザワしていたので私も駆けつけて聞いたら狐国の憲法が改正されて異種狐でも結婚出来ると聞いて私は思わず「やった～宮司さんと結婚出来る」と叫んでしまったの...そしたらみんなに質問責めにされて白状したの...ごめんなさい」
「いやいや、それはいずれバレルことだから...」

　とここまで言うと紀香が発情したのか紀香の甘いフエロモンの匂いが宮司の鼻にまで入ってきた瞬間に脳が何かの命令をしたのか宮司は紀香の手をひいて小高い丘の卑弥呼の時代の元稲荷古墳の頂上まで連れて行き愛の交尾を行っていた。この日は満月で頂上で愛し合っている姿のシルエットに刺激を受けた若い狐のカップルも次々と交尾を始めた。

　狐の妊娠期間は 50 日前後で発情期は 1 月から 3 月だから出産は 4 月～7 月になりこの西山の狐たちの赤ちゃんも次々生まれて小狐の遊び場所になっていた向日神社の境内の夜は小狐で賑わっていた。この夜には向日神社の信者の夜参りやお百度参りの農民などもお詣りに来るが、農民らはここに狐国の稲荷神社があることを知っているので狐が歩いていてもさほど気にしなかった。

　ある日の夜、農民の老女が夜参りをしていると小さな狐が遊んでいた。その老女が目をこすりつけて二度見していたのは小狐の毛の模様が白黒なので、
「あれれ?小狐だと思っていたが、パ、パンダ?ま、まさか?」
　そこで月が雲から出るのを待ってよ～く見るとやっぱり小狐で毛は白と黒で初めて見るパンダ狐だった。しかもパンダ狐は数匹で他にも三毛狐、四毛狐、うり坊狐、それに白毛に赤い筋がある人間の巫女さんに似ている巫女狐も発見していた。

このパンダ狐がいるという噂はすぐに農民に広がりこの変わり模様の狐を見ようと夜参りが大流行して農民らは狐の大好物の油あげと酒と弁当持参で大宴会、参道や境内には行灯や松明でライトアップ、狐のお面やおでんを売る店もでて連日賑わっていた。小狐たちもこの油あげを目当てに毎夜この向日神社に集まっていた。そしてその噂は京の都まで届いて高級貴族たちの妻や姫、それに官女、侍女までもが可愛いパンダ狐を見ようと牛車で押しかけたので向日神社の宮司や神職、それに巫女までこれら貴族への雅楽の演奏、狐のお面を被った巫女の神楽舞と接待に大忙しだったが貴族からの奉納のお金でもう一つ向日神社を建立出来るほど集まり神職、巫女に特別ボーナスが配られていた。

また狐国稲荷神社のお供え棚にも油あげ、鹿の肉、猪の肉、鶏の肉が山積みで奉納されていた。そして宮司と紀香との子供も雄 1 匹、雌 2 匹で長男の狐の柄は全身シルバーで顔の眉毛と鼻筋には赤い隈取があった。名前は 9 代目宮司の長男でいずれ 10 代目の宮司になることから団十郎と名付けられた。向日神社の参拝者からは歌舞伎役者の隈取に似ていることから歌舞伎狐と可愛がられパンダ狐と歌舞伎狐の 2 枚看板で向日神社の花形狐になったとさ。

正一位狐国稲荷神社 3 話 向日神社と卑弥呼の墓を守る卑弥呼狐たち伏見稲荷大社の物語 92 話

正一位狐国稲荷神社 3 話 向日神社と卑弥呼の墓を守る卑弥呼狐たち伏見稲荷大社の物語 92 話

この年には 3 月〜7 月までに生まれた小狐は西山 (嵐山〜天王山) だけでも 190 匹が生まれてそのうち約 120 匹が旧異種狐との間の小狐になる。これらの出生届を出すのは正一位狐国稲荷神社の神職で戸籍係の役所狐になるが、今までだったら憲法で異種狐の結婚が禁止されているために戸籍にはアカギツネ、父親〇〇、母親〇〇の長男〇〇と書くだけだったが、この憲法が改正されて日本国に生息する狐は北海道のキタキツネを除いてすべてホンドキツネという単一民族になった。

こうなれば生まれた子供の戸籍には父親アカギツネ〇〇、母親ギンギツネ〇〇の長男〇〇となるが、これらの子供が結婚して子供を産めばその子供の戸籍には父親雑種〇〇、母親混血〇〇長男の〇〇となる。しかし、狐国の憲法には雑種や混血という言葉は差別用語になり戸籍謄本には使えなくなる。とは言っても戸籍はその狐の大事な血統書になりすべてホンドキツネにすればその狐のルーツが曖昧になる恐れがあったからだ。

そこで役所狐は宮司と妻で巫女の紀香狐に相談をしていた、宮司は、
「それなら世帯主の父親の血統で一番血が濃い狐種、たとえばアカギツネ系ならその家族は妻や子も戸籍はアカギツネ系とすればいい」
その宮司の意見に妻の紀香は、
「そもそも世帯主や名字が父親とは誰が決めたの?母親でも私はいいと思います」
宮司は、
「いやいや、人間社会でも世帯主は男になる。それに天皇だって男子系しか天皇になれない」
「人間社会?人間社会は男尊女卑で男女差別、それにジェンダー差別に格差社会、さらに戦争が好きな野蛮人ですから狐社会は人間社会を見習うことは必要ありません。それに狐界では女狐が子育てから家事一式、それに 3 匹が食べる食事の狩り、そして獲物の捕り方まで教えて一人前にして独立さすまでの 1 年が終わるとまた父親と交尾して子供を

授かるが、この間に父親がしたことといえば 2 回の交尾だけなのになぜ?世帯主と名字まで父親にするの?別に女狐が世帯主でもいいのではないの?」

この紀香の演説を聞いていた宮司も役所狐も反論は出来なく宮司は、
「そか、それなら紀香ならどうする?」
「はい、この世帯主が誰で名字は父方か母方か?夫婦別姓か?は国が決めるのではなくその夫婦が相談して決めてそれを役所狐に報告すればいいだけです」
宮司も役所狐も狐につままれたような顔をして紀香の案をそのまま承諾していた。

この紀香の粋のいい発言はその日の内に地下にある狐国稲荷神社から飛び出して西山に生息している女狐たちを感激させてそれが口コミで全国の狐に広がるのには一ヶ月もかからなかった。この地下の神社には神職や巫女が 100 匹も住んでいる。その神職の長老狐は巫女の紀香を狐国の卑弥呼だと絶賛していた。

その長老の話だとこの向日神社の山裾には長岡京の跡があるが、実はここは今から約 600 年前 (248 年) までは邪馬台国があり巫女で占い師の卑弥呼の国でもあった。卑弥呼は太陽神に仕えていたが、この西山から東には東山があり、毎朝必ず東山から出てくる太陽にここからお詣りしていた。つまり、向こうの山から日が登るのでここ邪馬台国の守り神として向日神社とした。卑弥呼が亡くなり埋葬されたのが全長 94 メーターで前方後円墳の元稲荷古墳になる。

その卑弥呼がなくなると同時に権力争いから戦争になり邪馬台国の宮殿はすべて焼かれて戦った勢力の一方は大和の国に、もう一方は桂川を下り浪速の国に落ち延びた。その大和に落ちた勢力が大和政権になる。そのころから卑弥呼のお使いとしていた我ら西山の狐は向日神社の地下に潜り向日神社と卑弥呼さまのお墓を守ってきたが、その卑弥呼と同じ考えの紀香が狐国稲荷神社の宮司と結婚したのは神の御告げで我ら狐国は紀香さまを卑弥呼さまと信じてお仕えしなければならないという話を宮司にしていた。

この話も全国の狐に広がりいつのまにか紀香を卑弥呼狐さまと狐ばかりか人間社会にも広がり狐国稲荷神社や卑弥呼が眠る元稲荷古墳まで人間の参拝者は絶えなかった。そのころから卑弥呼狐の夫の宮司は神社の仕事を専門にして狐国の諸々の法律問題や狐同士の揉め事の相談まで卑弥呼狐が解決していた。

夏の終りのある日、向日神社の宮司の鶏冠井が卑弥呼狐に相談があると言ってきた。

卑弥呼狐は17歳の巫女2匹を連れて向日神社の社務所に行くが、その時は3匹とも人間の巫女に化けていた。卑弥呼はギンギツネのために銀色の巫女の衣装、2匹の巫女はシロギツネのために真っ白の巫女の衣装で宮司を訪ねるが、宮司はこの超美人の巫女がまさか狐かと腰を抜かすほど驚き何回も自分の頬をつねっていた。

宮司は卑弥呼狐に、
「実は今年も10月20日から1ヶ月恒例の紅葉まつりを開催するが、3月頃から境内に変わり柄子狐のパンダ狐や巫女狐に歌舞伎狐が現れて農民から貴族まで見物に来ていたが、最近、その小狐がなぜか?少なくて奈良や四国からの参拝者や観光客をガッカリさせている。もう今年の紅葉まつりでは従三位左大臣藤原定家さまの正室御一行さまを始め高級貴族の予約がかなり入っているが、もし人気の変わり狐が来てくれなかったら私は宮司を解任されるかも分からない」

卑弥呼狐は、
「春に生まれた子狐は母狐に狩りの訓練を受けていてそれなりの獲物を食べていますからもう境内から遠のいたからです。それに参拝者が狐の餌にと持ってきて下さる油あげも飽きたのかと思います」
「そうですか...それなら何かいい方法はないのですか?」
「そうですね、もし宮司さんが解任されて次の狐国稲荷神社や狐に理解がある宮司さんが赴任されない可能性もありますからなにか考えます」

卑弥呼狐は今年生まれで両親の種類が違う変わり柄の小狐約120匹を狐国稲荷神社の参集殿に集めて向日神社の境内になるべく行くようにと要請していた。
「向日神社の宮司さんが最近皆さまが境内に遊びに来ないので心配されています。そして宮司さんは氏子や参拝者に子狐への餌はもう油あげではなく人間の子供が喜ぶお菓子やおもちゃを持って来るようにと要請されました。でも皆が一斉に行けばお菓子もおもちゃも足りません、ですからここの子狐を6班に別けて6日に1回だけ向日神社の境内に遊び行って下さい。わかりましたか〜」
小狐は全員人間のお菓子とおもちゃと聞いて目を輝やして全員はい〜といい返事をしていた。さらに卑弥呼狐は、
「紅葉まつりは11月20日までですからこのお祭りが終れば皆さまを遠足に連れていきます。行き先は私たちの稲荷神社の総本宮の伏見稲荷大社です。これも向日神社の宮司さんからリュックサックがプレゼントされて中にはお弁当とお菓子が入っています。わかりましたか〜」

集まった小狐は神職や巫女さんに整列させられて人気のパンダキツネ、巫女キツネ、

歌舞伎キツネが一つの班に 3〜4 匹が入るのように班分けしていた。そして 10 月 20 日になり向日神社紅葉まつりの初日が開催されて境内には篝火や行灯でライトアップされた。その中を綺麗に毛並みを手入れされた 20 匹の変わり柄狐が入場すると貴賓席の高級貴族の正室の御一行から参拝者、観光客までヤンヤヤンヤの歓声と拍手で小狐たちは照れてはいたが、お菓子やおもちゃをもらった喜びの笑顔は人間の子供たちと何ら変わらなかった。

(4 話につづく)

この小説を原作にして漫画を描いて頂ける漫画家さんを募集しています。

正一位狐国稲荷神社 4 話パンダキツネ、歌舞伎キツネ嘉智子皇后に芸を披露 伏見稲荷大社の物語 93 話

正一位狐国稲荷神社 4 話 パンダキツネ、歌舞伎キツネ嘉智子皇后に芸を披露伏見稲荷大社の物語 93 話

向日神社のパンダキツネや歌舞伎キツネを実際に見に来た貴族の正室や愛妾、そしてお付きの官女、侍女まで入れるともう 1000 人ぐらいは生の変わり柄狐を見ている。そしてそれぞれが墨の濃淡を使ってパンダキツネを和紙に描いていた。この貴族の世界では女性は書と絵が書けることや和歌から笛、お琴までの習い事は 15 歳までに覚えることが必須条件だった。

だから世にも珍しいパンダキツネや歌舞伎キツネなどを模写することは簡単なことだが、やはり絵のセンスは個人差があり 100 人の女性がパンダキツネを書いてもすべて同じにはならない。そのパンダキツネの絵をある貴族の屋敷に出入りしていた版画屋の文春堂が見つけてこれは金になると侍女から 1 枚 10 文で 5 枚買い上げた。

この文春堂は京の都の 5 軒ある版画屋の大手でこの侍女から買ったパンダキツネの絵を版画にして 1 枚銭 10 枚で売ったところこれが大人気で飛ぶように売れた。こうなると残りの 4 軒の版画屋は高級貴族の官女、侍女を捕まえては文春堂より高い 1 枚 20〜50 文で買っては競争で売り歩いた。また、これは官女や侍女にとっては最高のアルバイトになり今まで墨で黒一色だったが、それが 2 色、3 色になり色々な絵柄とともにこの版画を買う商人や農民、町人まで版画を観る目が肥えてきた。さらに人気作家の紫式部に支払う原画料も 5 軒の競争で鰻登りになり 1 枚一貫 (銭 1000 枚) にもなっていた。

大極殿のある御所には女性が約 1000 人働いているのでこの 3 月から 11 月までに向日神社の生パンダキツネや生歌舞伎キツネを見たものはほとんどで宮殿では絵に描いたり話のタネにしていた。が、ただ一人だけこの話に入れなかったのは桓武天皇の正室の従二位嘉智子皇后はパンダキツネを見たくて見たくてイライラしていた。

嘉智子皇后は11月5日に日本国軍隊及び天皇の近衛兵の大将軍の従二位征夷大将軍坂上田村麻呂を宮殿に呼んで、
「わらわも向日神社のパンダキツネを観たいので向日神社への行幸の用意をしなさい」
田村麻呂は急な話に驚いて、
「恐れながら皇后さまの行幸ともなるとお付きの官女や侍女で少なく見積もっても300人の大行列になります。その警備には1000人ほどの武士が警備しますが、それの用意には1ヶ月ほどかかります」
「そか、それならそれを10日でしなさい」
「し、しかし、それに向日神社へは西国街道になりますが、西国街道は道幅が狭くて皇后を乗せた牛車の両脇には騎馬隊が警備しますがそれも出来ません。さらに、向日神社は勝山の中腹にあり坂道の両脇には竹藪や雑木林がありそこから弓を射られれば防ぎようはありません」
「そか、それならその西国街道の幅を広げて山の中の竹藪も雑木林もすべて切りなさい」
「お言葉ですが、それを10日では絶対に出来ません」
「もしもし、田村麻呂さん、私はこの国のナンバー2で女性のトップになります。その私だけが向日神社の変わり柄キツネを見ていないのは恥になるが、その私の恥をなんとか解決するのが従二位攘夷大将軍坂上田村麻呂ではないのかい?」
「は、ははは...恐れ入ります」

田村麻呂はすぐさま馬を飛ばして向日神社の宮司に面会を求めて事情を話していたが、まず宮司の目の前に銀100枚を置いてから、
「実は嘉智子皇后さまが向日神社の変わり柄狐を観たいとおっしゃっているが、警備上皇后さまはこの向日神社まで来られない。したがって変わり狐の代表的な小狐10匹ほどを貸してほしい」
宮司は目の前にある銀100枚もあれば老朽化した本殿を建て替えできる大金だが、それより何より断れば目の前の従二位攘夷大将軍坂上田村麻呂に首をはねられるのは確実で震えながらも、
「実はあの狐たちは向日神社の狐ではなく境内にある正一位狐国稲荷神社のお使いなのです」
「そか、それならその神社の宮司をここに呼べ!」
「そ、それが宮司は...狐なんです」
「キ、キツネ?...狐が宮司か?で、その狐の宮司は人間の言葉は分かるのか?」
「いえ、それは無理ですが、私はもう狐の付き合いは長いですから狐の宮司の妻の卑弥呼狐とはなんていうか...テレパシーで意味は通じます」
「そか、それなら宮司に全権委任するが、成功すればこの銀100枚は嘉智子皇后から向日神社に寄贈するが、失敗したら...分かっているだろう〜宮司!」

宮司は早速、卑弥呼狐を神社に呼んで田村麻呂の話を説明していた、
「あの大将軍は自分の命令を守らない人間は絶対に生かしておかないことから軍の司令官

までになった。今回も恫喝をされた」
「それで変わり柄狐の御所への派遣はいつですか?」
「それが 10 日後の 11 月 16 日の夜 7 時までに変わり柄狐 10 匹を大極殿まで連れて行かなければ私の首が飛ぶという皇后さまからの勅使には絶対に逆らえない」
「そうですか〜なんとかしましょう」

卑弥呼狐は皇后から要望のあったパンダキツネと歌舞伎キツネの人選を始めた。パンダキツネは 7 匹、歌舞伎狐は 3 匹で卑弥呼狐と化け方が上手な巫女狐 2 匹の合計 13 匹で変わり柄狐ショーの編成とした。ただ、変わり柄狐を歩かしただけでは皇后は満足しないだろうと演出を考えていた。だが、まだ小狐で母親からは満足に化け方も教わっていないだろうと人選した小狐 10 匹に簡単な化け方の特訓を始めた。

田村麻呂からは向日神社の宮司へ使者が来て当日は騎馬に乗った武将 4 人が狐 13 匹の先頭と警備をしてくれるという連絡があった。向日神社から御所の大極殿までは約二里半 (10 キロ) で狐が走れば 1 時間ほどだが余裕を見て午後の 5 時に向日神社を出発することになった。

さて、この向日神社の変わり柄狐が大極殿で皇后に変わり柄狐ショーを奉納するという噂は御所の侍女から巷に漏れて羅城門から御所へのメイン通り (約一里幅 80 メーター) の朱雀大路の両端には一目変わり柄狐を見ようと商人や職人、それに東寺、西寺の坊主まで鈴なりの観客で埋まった。

まず先導の騎馬 2 頭の後ろには大人のシロギツネが 3 匹、その後ろに変わり柄の狐が 10 匹が走って観客の前に来ると拍手と歓声で迎えたが何せその時間は 5 秒ほどで満足はせずに観客は御所目掛けて歩き始めていた。午後 6 時に着いた狐たちは控えの間に案内されて卑弥呼狐の指導で最後の練習をしていた。

舞台は大広間の庭に特設ステージが作られ伏見稲荷大社からは人間の雅楽の神職の応援があり、司会は従四位橘慎之助でステージが始まった。司会はまず正一位狐国稲荷神社の巫女さん 3 狐の神楽舞ですというなり雅楽の演奏が始まり巫女狐が人間の巫女に化けて巫女舞を踊ったが、それが超美人で皇后の取り巻きの高貴な身分の女性までうっとりしたが、皇后がその女性に、
「司会はたしか狐が 3 匹と言っていたが、あれはキツネか?」
「さあ〜???〜???」
なにはともあれ皇后は拍手をしていたが、その拍手が終わると同時に巫女が一瞬シロギツネに変身した、つまり元の狐に戻ったものだから皇后は我が目を疑っていた。

次はパンダキツネ 7 匹と歌舞伎キツネ 3 匹が現れて 10 匹が整列して皇后に頭を下げると皇后は縁側まで出てきて 10 匹の狐の頭を撫ぜていた。そして鼓の音が...ポン、ポン、ポンで 3 匹の歌舞伎キツネが宙返りすると一休さんの小坊主の姿に化けていた。これには皇后も涙を流して喜んでいた。

そしてまた鼓の音が...ポン、ポン、ポンで 7 匹のパンダキツネが宙返りすると人間で小さな子供の巫女姿に化けていた。皇后はこれにも惜しみない拍手をして舞台は終わっていた。そして脇で控えていた従二位攘夷大将軍坂上田村麻呂を呼んでいた。田村麻呂は、

「皇后さまご満足して頂けましたか?」

「田村麻呂でかした。で、なんでも向日神社の紅葉は大層綺麗というが、御所でそれを見ていないのはわらわだけでだという。田村麻呂すぐに向日神社への行幸の準備をしなさい!」

「エ〜〜〜え〜〜そんな〜またですか?...」

(おわり)

この小説を漫画にしていただける漫画家を募集しています。また、文中出てくるパンダキツネや歌舞伎キツネの絵を是非描いて下さい。そしてご自分の SNS に# パンダキツネ # 歌舞伎キツネと投稿してね。

正一位狐国稲荷神社 5 話 狐と人間の和解で正一位向日神社建立へ伏見稲荷大社の物語 94 話

正一位狐国稲荷神社 5 話 狐と人間の和解で正一位向日神社建立へ伏見稲荷大社の物語 94 話

正一位狐国稲荷神社の変わり柄の小狐 10 匹が嵯峨天皇の正室の正二位橘嘉智子皇后に芸を披露したことから嘉智子皇后から老朽化していた向日神社の本殿の寄進があり新築建立することになった。ただこれはそこらの村社の神社の建設ではなく橘嘉智子皇后の寄進ということで嵯峨天皇及び朝廷の威信をかけて日本一の神社の本堂でなければならない。

その向日神社の建立工事の責任者には正四位藤原信照が選ばれて向日神社境内に工事事務所が開設された。信照はまず官営西寺、東寺の建立工事から宮大工 50 名を向日神社に充てて宮大工棟梁の宮治郎に本殿の設計を依頼していた。信照は宮治郎にその条件を説明していた、
「棟梁、向日神社の本殿はこれから日本国の神社の千年先までお手本になる本殿を造ってほしい」
「わかりました。それで工期は 10 年ほどですか?」
「いやいや、皇后はせっかちな人で 1 年で頼む」
「そ、そんな無茶な...西寺、東寺の工期は 20 年でも無理な話しなんですが...」
「なにが無理なのか?」
「まず、木材を丹波から運ぶだけで 1 年はかかります。それに大工 50 人では...」
「そか、それなら木材は西寺と東寺用に製材してある柱や板をそのまま向日神社に転用すればいい、それに大工を 300 人ほど向日神社に派遣すれば出来るのではないか?宮治郎!」
「まあ～それなら、しかし、西寺と東寺の工事は止まってしまいますが...」
「それはやむを得ない...宮治郎 1 年を絶対守れ、もし失敗したら私と棟梁の首はないと思え!」

この向日神社の境内には卑弥呼の墓と伝えられている元稲荷古墳と正一位狐国稲荷神社があるが、この神社は地上部分はこじんまりした祠しかない。だが、地下の部分では

向日神社の本殿の真下や外拝殿の地下には狐国の拝殿や神楽殿に無数の部屋がありここに宮司や神職、それに巫女まで約 100 匹が住んでいた。

そこで本殿の建て替えになるが、まずは老朽化した本殿を解体してそこに新しい本殿が建立されるという向日神社の鶏冠宮司の説明が狐国稲荷神社の宮司の妻で巫女の卑弥呼狐にもあった。この卑弥呼狐はギンギツネで紀香という本名があったが、祈祷師でもあり狐国の呪い師として国の安寧と子孫繁栄を願う実質的な女王であった。
その宮司が言うには、
「本殿と外拝殿の真下を掘ってさらに一回り大きな建物になるが、そうなれば地下の狐国の拝殿や巫女が寝泊まりしている部屋の天井が落ちる危険がある。そこでこの地下から撤去してほしいが、どうだろう?」
「たしかに向日神社がさらに発展して新しい本殿が建立されるのは私たちも嬉しいが、この本殿の下の穴は我々の先祖が手掘りで 100 年もかかって掘ったものです。さらに別の土地に新しく掘るとなるとまた 100 年はかかるが、宮司はどう思う?」
「いや〜それは分かるが...相手は皇后陛下で窓口は正四位藤原信照さまだ、私は一言も反論できる立場ではない」

この狐国稲荷神社の地下の大部分が土で埋もれるという噂は狐界に広がり狐国の臨時評議会が開催されていた。この評議会は人間社会の国会になり宮司が議長で元狐種のアカギツネ、クロギツネ、ギンギツネ、シロギツネから男女 1 匹の 9 匹で構成されている。クロギツネの雄の長老狐が、
「この地は我々狐の先祖が開拓したもので向日神社は我々の土地の上で 100 年ぐらい後に建立されている。むしろ向日神社のほうが立ち退くのが筋になる」
シロギツネの雄の評議会議員が、
「なんでも本堂の真裏に広大な広場を整備してそこに大工 300 人の飯場を作り、また木材を積んだ牛貨車の搬入のために西国街道から約 300 ㍍の緩やかな坂道を造るが、それには向日地区 (乙訓地区) 六ヵ村の農民約 300 人を労役で狩りだして土木工事をするが、その搬入口さえ作らせなかったら工事は始まらない」
その意見に宮司の妻の卑弥呼狐は、
「しかし、その六ヵ村の農民と戦うことになるが、我々は農民とは協力共同で長年やってきた。農民の一人でも傷つけばそれが壊れる」
そこで宮司が、
「農民とは仲良くしたいのでその飯場と搬入口の整備が終わって建設事務所の貴族や大工が仕事を始めたら我々の力で工事の邪魔をして向日神社の建立を諦めるさせるのはどうか?」
この宮司の案は全員一致で決議された。

本殿の裏山が広大な広場になりそこへ通じる坂道が 1 ヶ月後にできた。西寺と東寺で

は大工 1000 人が、工事事務所と飯場の建物、新しい向日神社の柱や板の加工をしていた。これらは工事現場で加工するのではなく大工の人海戦術で加工した木材を牛貨車 20 頭を往復させて運び現地で組み立てるという作戦で考えたのは正四位藤原信照になる。

その加工されたまず工事事務所と飯場の木材を牛貨車 20 頭を第一陣として西寺を早朝出発していた。この先頭には馬に乗った信照が先導して新しく出来た搬入道路に入った所で馬も牛も硬直して引っ張っても押してもピタリとも動かなくなってしまった。牛方の親分もこんなことは初めてで首を捻っていた。この木材が搬入されなければなにも出来ないと焦りながら何回も牛を差し替えてはいたが、まったく同じで牛は一歩も足を前には動かさなかった。

これを見ていた農民は信照に、
「これはお狐様の祟りかも分かりません。ここには全国の狐の稲荷神社の総本宮正一位狐国稲荷神社がありますのでお山を荒らされたと怒っているのかも分かりません?」
「そ、そんな馬鹿なことが...あるはずがない」
これを聞いていた牛方の親分は、
「いやいや、こんなことは初めてで案外そうかも分かりません?」
「それなら親分ならどうする?」
「さあ〜それは...なんならこの向日神社の宮司に相談すれば如何でしょうか?」

宮司は信照の突然の訪問に驚いていた。そもそも正四位の貴族とは朝廷の大臣クラスで私兵の武士団を 300 名も抱える有力貴族でたかが村社の宮司ではただただひれ伏すしかなかった。
その信照が、
「馬も牛も工事搬入路に一歩も足を入れないのは狐の祟だというが、宮司はなにか知っているのか?」
「それは狐の祟りだというよりこの山には棲む動物たちが団結をして邪魔をしているのです」
「そか、それなら宮司、何とかしなさい」
「恐れながら私にはなにも出来ません、しかし...」
「しかしとは、なんだ申してみよ」
「実はこの向日神社も 60 年前に建立されたが、たまたまこの敷地の下には狐国稲荷神社があり、その狐たちからその工事の邪魔をされて 3 年の工期が 10 年もかかり狐と人間の 10 年戦争の末やっと和解が成立して建立出来たのです」
「その邪魔とは?なんだ?」
「はい、当時も 100 人ほどの大工の飯場がありましたが、その夜の飯場に夜な夜な狐が化け物に化けて出てきたのです。それで大工が睡眠不足ならまだしもノイローゼになり怪我や事故死が続出して大工の棟梁も責任を取って自殺しました」

「それで狐との和解とは?」
「はい、当時の宮司と狐国稲荷神社の宮司が話し合い、狐の穴を避けて柱を作るように本殿の設計を変更した上で狐と人間との協力共同の協定を交わしたのです。その協定は今でも生きています」
「そか、それなら私もその狐国稲荷神社の宮司と交渉したいが、狐の要求はなんだ?」
「はい、それは今の神社より一回周り大きな社殿にすればより多くの柱やその礎石を固める為の穴も深くなり狐国の神社の天井が落ちるからです」
「そか、しかし、皇后寄進の神社にもなると正一位の位が与えられて格式が付き相当大きな本殿にしなければならないが...宮司いい考えはないのか? 」
「そうですね〜大きな本殿なら大きな庭も必要になりますのでこの本殿の場よりも広い本殿裏の整備された場所に建立されれば良いと考えます。そして 300 ㍍もある工事資材搬入路は神社の参道にすれば神社の格も上がります」
「そか、それなら狐の邪魔もなくなり一年で新しい向日神社ができるかも...宮司でかした。それで狐国稲荷神社の宮司とはいつ会える」
「はい、この信照さまとの会話は狐に筒抜けですから信照さまが狐国稲荷神社にお詣り下さい」

信照は解体前の向日神社裏側の小さな丘の頂上にある小さな祠の正一位狐国稲荷神社に詣り向日神社新築工事の安全祈願をしていると、ふと後ろに人の気配を感じて振り向くとそこには超美人の巫女が、
「信照さま、私どもの神社にお詣りをありがとうございます。私はこの神社の卑弥呼狐という巫女です」
「ふむ...ということはそなたも狐になるのか?」
「はい、信照さまは私どもの神に向日神社新築工事の安全祈願をされましたが、どうなされました?」

信照はまさか、たかが狐がこのように綺麗な美人に化けられるとは信じられないが、それが夢ではなく現実だと思いこむのには少しの時間がかかっていた。やがて、工事資材の搬入道路に馬も牛も入れないことを打ち明けていた。
「それは毒蛇のまむしのせいです。まむしが搬入路の両脇の雑木林に数十匹隠れていて馬や牛を鎌首をもちあげて威嚇していたのです。大きな馬や牛でもまむしに噛まれば絶対に命がないことを知っているので足を止めたのです」
「そか、犯人はまむしだったのか?で、そのまむしをどうすれば退治できる」
「その生き物を退治するというお考えでは工事の安全祈願は受付できません」
「そか、それならまむしと共存共栄するにはどうしたらいいのか?」
「はい、私がまむしの親分の毒蝮三右衛門に交渉いたします」
「そか、それは宜しくお願いいたします。それと先程宮司と話し合った結果だが...」
「はい、それはもう聞いています。それと解体された向日神社の跡地は何にお使いで

すか?」
「いや、まだ決まってはいない私の試案だが、梅や桃、それに桜、紅葉の木等を植えて四季に花が咲く向日神社門前公園にしたい」
「それは良い考えです。私も楽しみにしています」

とその時、この神社から下に見える工事搬入路を見るとそこには木材を積んだ牛貨車が列をなしてゆっくり上がってきたので信照は感動して卑弥呼狐に改めて礼をと振り返えり卑弥呼狐を見るとそこにはもう卑弥呼狐はいなかった。

(この話は 6 話につづきます。今回はパンダキツネ、歌舞伎キツネは出てこなかったが、7 話では出演いたします。また、この変わり柄キツネのイラスト、この小説を漫画にしていただける漫画家さんを募集しています。挿絵のパンダキツネは、姉姉@un84z (ツイッター) さんの作品です)

正一位狐国稲荷神社 6 話 団十郎キツネ歌舞伎一座を旗揚げ嘉智子皇后向日神社竣工式へ 伏見稲荷大社の物語 85 話

正一位狐国稲荷神社 6 話 団十郎キツネ歌舞伎一座を旗揚げ嘉智子皇后向日神社竣工式へ 伏見稲荷大社の物語 85 話

正四位藤原信照から向日神社の本殿はこれから 1000 年先まで神社のお手本となる造りを設計しろと命令されて宮大工の頭領宮治郎が考えたのが屋根が反り、屋根が前に曲線形に長く伸びている流造 (ながれつくり) だった。この宮治郎の流造は全国の神社のお手本となり 1000 年後の明治天皇とその正室を祀る明治神宮の本殿はこの向日神社の社殿の 1、5 倍に設計して建立されている。

そして 1 年後の 11 月 20 日に完成の予定で竣工式が予定されていた。その報告を正二位攘夷大将軍坂上田村麿と藤原信照が嵯峨天皇の正室正二位橘嘉智子皇后に竣工式の報告をしていた。皇后は、
「そか、それは良かった、信照、褒めてつかわすが、わらわが寄進した神社の竣工式には行幸出来ないのか?田村麻呂」
田村麻呂はこの皇后の性格は知り尽くしているので、
「はい、その予定は出来ていますから安心して下さい。狭かった西国街道の幅を広げて桂川を渡る久世橋も補強しました。さらに 300 ㍍もある参道には石畳を整備していますので牛車で本殿まで行けます。昨年は紅葉狩りの希望を果たせませんでしたが、今年は紅葉のトンネルをお楽しみして頂けます」
「そか、それは楽しみになるが、ところで一年前に大極殿でパンダキツネや歌舞伎キツネの演技を見たが、それらの狐は今はどうしている?、できたらもう一度会いたいが?いかがか?田村麻呂!」

さすがの田村麻呂はここまでは予想していなくて、
「ささ、狐は 1 年で大人になるといわれていますから... あれは小狐だから可愛いのでは?」
「いやいや、小狐ではまだ化け方が上手くないから可愛いが、大人になればもっと凄い化け方があるはず?... 田村麻呂、手配せよ!」

信照と田村麻呂は顔を見合わして完璧だと思っていた皇后の向日神社への行幸の用意だったが、まさか狐の化ける演技を見たいとは...その竣工式までは10日しかないが、この想定外の出来事に二人は慌てていた。

信照は田村麻呂大将軍に、

「とりあえず私が正一位狐国稲荷神社の卑弥呼キツネと交渉いたしますが、なにかお土産がなければ話辛いので田村麻呂大将軍さま、なにか考えて下さい」

「何かと言っても狐に銀を与えても猫に小判になるが...さて...ところでお主と卑弥呼狐の妹で月光巫女とは仲が良いという噂が朝廷まで聞こえているが、その月光に褒美は何がいいかと聞けばいいのではないか?...信照!」

「いや～それは人聞きが悪い噂です。たしかに向日神社の建立工事にあたって卑弥呼狐は忙しいので妹の月光とは良く打ち合わせをしていますが...それは仕事で、しかも月光は狐ですよ、田村麻呂さま」

「そか、しかし、その月光が人間に化けた姿はかなりの美形だというが...」

信照は田村麻呂のいう通りに日没で仕事が終わると毎日のようにまだ解体工事をしていない旧向日神社の舞殿で待ち合わせて月光と楽しい時間を過ごしていた。そして皇后陛下がまた狐の演技を希望されているが、いかがだろうと打診していた。信照は、

「皇后さまの命令は絶対で守らなければ私の首がなくなる」

「信照さまの命がなくなれば私も生きてはいけませんので私も後を追います」

「いや～それは困る、月光のお腹には私の子供が宿っている。ただ、皇后さまに狐の演技を見せることと向日神社の竣工式が無事終われば私は一段階官位が上がって従三位の超高級貴族が約束されている。そうなれば月光に屋敷を与えるからそこで子供を産んでほしい。そして生まれた子供が男の子だったらその子供は従四位の高級貴族の身分が約束されている」

「信照さま～嬉しい～狐の私でも本当にいいのですか?」

「今更、何を言っている、私は月光を心から愛している」

月光は姉の卑弥呼キツネに皇后さまご希望の狐の演技と信照さまのお子を宿していることを打ち明けていた。卑弥呼狐は、

人間と協力共同すればやがてこういうことが起きる心配はしていたが、寄りによってそれが妹だとは...でも、信照さまは人間の中でも最も信頼出来るとそれを許していた。

一方の信照は田村麻呂に皇后に見せる狐の演技は出来ると報告していた。で、その褒美とは洛中に月光狐が住む屋敷の許可が欲しいという願いと報告している。田村麻呂は、

「そか、屋敷の許可なのか?、狐といえば稲荷神社の祠だと思っていたが、なぜ?屋敷なのか?信照!」

「さて、それは私にも?」

「そか、では、その屋敷は誰が建てるのか?」

「そ、それは私が建てます」

「ほう、やはり宮殿の官女や侍女が噂している女狐を腹ましたのはお主か?信照!」
「.....」
「そか、まあ〜すぐに従三位になるのだから愛妾の一人やいや 1 匹や 2 匹は嵯峨天皇もお許し下さるだろう?」
「...田村麻呂さまありがとうございます」

信照から皇后さまの前で再び変わり狐らが演技をするという要望に喜んだのが卑弥呼狐の長男で歌舞伎キツネの団十郎と昨年も皇后さまの前で演技をした 10 匹の小狐だった。これらはあの皇后や高級貴族の女性たち 300 人の拍手に感動したのがきっかけで芝居の勉強をするために団十郎を座長にして歌舞伎団十郎一座を旗揚げしていたからだ。その座員も役者が 15 名、囃子方が 8 名で 23 匹の座員を抱えていたが、その芝居の発表会はまだ一度もなかったが、この信照が持って来た話に一座は大喜びをしていた。

この 1 年間は人間が先祖の霊を敬うための盂蘭盆会の念仏踊り (民族芸能・後の六斎念仏) がどこの村でも開催される。この向日地区 (乙訓) では久世村六ヵ村が合同で蔵王の森の村社で毎年 8 月 31 日に開催されるが、この念仏踊りを村長の許可を得て村民の練習にも合同参加させていただき踊りから笛や太鼓、鐘などの演奏まで教えてもらいその復習を向日神社の舞殿で連日連夜行っていたが、信照の持って来た話はいわば歌舞伎団十郎一座の旗揚げ公演となる。

11 月 20 日の早朝には向日神社竣工式の来賓者の皇后さま御一行さまだけでも高級貴族の正室やその官女、侍女だけで 300 人。官営西寺の官主守敏、東寺の空海、上賀茂神社宮司、松尾大社宮司、稲荷神社宮司などで 500 人にもなった。竣工式そのものは厳かなものだったが、来賓者のお目当ては歌舞伎団十郎一座の旗揚げ公演になっていた。

本来は神様への奉納芸能になるために本殿に向かって舞殿で演じるものだが、今回は特別に本殿裏の多目的広場に特設舞台と特設観覧席がコの字型に設けられた。開演時間は午前 11 時だが、その前座として今年生まれた変わり柄小狐が舞台と観覧席の間の庭で披露されていた。パンダキツネに歌舞伎キツネはもちろん豹柄や虎柄までの小狐 53 匹が整列して貴賓席の真ん中の皇后陛下にペコと頭を下げると皇后は小狐のあまりにもの可愛さに涙を浮かべて喜んでいた。

本来神社といえば雅楽と巫女の神楽舞になるが、団十郎一座は鐘と太鼓と笛の民族芸能 (後の歌舞伎) で人間の姿に化けた囃子方は太鼓が 4 人、鐘と笛が 2 人の編成でまずは太鼓の 4 人打ち舞で幕は開いた。浴衣を着た男の囃子方だがどれも絵に書いたような美形で来賓者の女性たちはこれは狐が化けているというのを忘れて見惚れていた。

次に雌の狐が人間の遊女に化けた 11 名の踊りだが、このセンターには朝廷でも噂になっていた月光がこれまたこの世に存在しないような美形に化けて踊るが、皇后はお付きの官女に、
「あのセンターの狐が信照の愛妾の月光か?」
「はい、なんでも妊娠をしているそうです」
これを聞いた瞬間に 500 人もの来賓者の目は脇に控えていた信照に集中していた。

この後は猿に化けた狐と小狐が化けた小猿との猿回しだが、これは猿回しの言う事を聞かない小猿のコミカルな寸劇でこれは大爆笑になった。そして真打ちは団十郎一座の座長が獅子になり踊り、5 段に積まれた囲碁盤の上で逆立ちして見得を切る見せ場の後は、農民をいじめる極悪土蜘蛛とのバトルで獅子が放った蜘蛛の糸で土蜘蛛を退治するということで幕は閉じられた。

(7 話につづきます。画像の月光神社は従三位藤原信照の愛妾の屋敷の庭にあった祠で安産祈願の神社になる。この辺りの地名も京都市中京区月光町となっている。この小説を漫画の原作にしていただける漫画家さんを募集しています)

正一位狐国稲荷神社 7 話 従四位祈祷師卑弥呼狐が「薬子の変」を暴く伏見稲荷大社の物語　96 話

正一位狐国稲荷神社 7 話 従四位祈祷師卑弥呼狐が「薬子の変」を暴く伏見稲荷大社の物語　96 話

　嵯峨天皇の正室の嘉智子皇后は正一位狐国稲荷大明神の狐たちが化けての六斎念仏やコミカルな演劇を 2 回観劇してからは稲荷神社の総本宮の伏見稲荷大社の参拝よりも向日神社の正一位狐国稲荷神社の信者になっていた。そして狐国稲荷神社の宮司の妻で卑弥呼狐の祈祷占いを信じて何かと朝廷の悩み事を相談しようとしていた。

　とはいっでも皇后から向日神社への行幸は何かと警備から向日神社側の接待も大変だと警備を担当する正二位攘夷大将軍坂上田村麻呂に釘を刺されていた。そこで卑弥呼狐を宮殿に呼ぶことになったが、宮殿に入れて皇后と面会できるのは従四位以上でしか無理だと田村麻呂から注意を受けていた。

　田村麻呂は皇后に、
「どんな理由があっても朝廷の決まり事は守って頂きます」
「しかし、田村麻呂、天皇は官位のない女性を愛妾として何名も宮廷内の屋敷に囲っているが、それはどうなる!」
「はい、それは侍女として天皇の身の周りをお世話する係ですからやむを得ません」
「そか、それなら卑弥呼狐にわらわは官位従四位を与える」
「いゃいゃ、そんな狐ごときに官営を与えることは歴史上ありえません」
「しかし、よく聞け田村麻呂、それなら伏見稲荷大社や上賀茂神社、それに松尾大社などの神社には正一位の官位が与えられているのに卑弥呼狐に官位を与えない理由が、卑弥呼狐が狐だという理由ならそれは動物愛護の観点からもおかしくなるが...田村麻呂答えよ」
「それは...正一位の神社は朝廷のさまざまなことを祈祷占いをしてくれるからです」
「そか、それならわらわは正一位狐国稲荷神社の卑弥呼狐をわらわ専属の祈祷占い師に任命するが、それでも田村麻呂は卑弥呼狐に官位を与えるのは反対なのか?」
「.....それは反対ではありませんが、もし、卑弥呼狐の加持祈祷の占いが当たらなければ官位を没収してもいいのなら」

「それは当然になる」

この皇后からの話を卑弥呼狐に伝える使者には向日神社の新築建立の責任者で愛妾に狐の月光を囲う正四位藤原信照だったが、出世して従三位動物愛護大臣になっていた。信照は馬を飛ばして卑弥呼狐と向日神社の貴賓室にいた。信照は黒檀の位牌に「従四位狐国祈祷占い師卑弥呼狐」(これは現在の位牌と同じでこれが官位証明となる) の位牌を授与すると、卑弥呼狐に、
「これは宮殿に出入りできて天皇や皇后と接見できる鑑札になるもので卑弥呼狐は皇后さまの祈祷占い師に任命されたので以後皇后様からのお呼びがある時は私が使者となります」

卑弥呼狐は突然で驚いてはいたが、皇后が何を占ってほしいかは宮殿内にある稲荷神社の狐からは報告を受けていた。つまり、この向日神社の地下には狐が通るための秘密の通路があるが、宮殿の地下にも秘密の通路があり人間社会が狐に対して不当な扱いを決めないかを監視していたからだ、この地下からすぐ上の部屋で宮廷幹部が何を話しているかはすべて狐国は把握していた。

信照は皇后が卑弥呼狐に何を占ってほしいかの説明をしている。それによると嵯峨天皇の兄で先の平城天皇が上皇として宮殿内の屋敷にいるが、その上皇が奈良仏教会の坊主となにやら不穏な動きがあるが、この件を占ってほしいというものだった。これを聞いた卑弥呼狐は信照にこの黒幕は従三位参議藤原縄主の妻でありながら上皇と不倫をしている薬子になるが証拠がないので私の祈祷占いであぶり出しますのでその準備をと信照に進言していた。

この奈良仏教会というのは奈良に本山がある六宗派七大寺院のことでこれに敵対しているのが比叡山の最澄、空海になるが、この両名は嵯峨天皇から遣唐使として唐国に派遣されて後 2 年間は日本には帰っては来ない。最澄は比叡山で修行している約 1000 名の僧侶に最澄、空海が帰って来るまでは比叡山から一歩も出てはいけないと命令していた。これは対立している奈良仏教会とのトラブルを避けるためになる。

この最澄と空海は嵯峨天皇の知恵袋でなにか朝廷に問題が発生すればこの 2 名に加持祈祷で占ってもらっていた。そんな時に奈良仏教会の不穏な動きを相談する 2 人がいないので正室の嘉智子皇后に相談すると皇后はそれなら正一位狐国稲荷神社の卑弥呼狐に相談すればいいとなって皇后は卑弥呼狐に従四位の官位を与えた経緯があった。

嵯峨天皇の父親の桓武天皇は奈良仏教が権力を持ちすぎたことを嫌い長岡京へと遷都した後に平安京を築いた。この平安京への遷都大作戦の仕掛け人は比叡山の最澄と空海、それに稲荷神社の伊呂具だが、これに不満なのは奈良仏教会で奈良仏教は再度都を奈良に取り戻そうと平城京の旧内裏や旧大極殿など朝廷の主な建物を管理下に置いていつ天皇が奈良に帰って来てもいいようにしていた。

その憎き最澄と空海が日本にいないことをいいことに元奈良仏教会と癒着していた貴族に近付き奈良遷都の工作をしていた。その貴族に従四位藤原仲成と弟の従 5 位藤原安継、妹は薬子で薬子は従三位参議藤原縄主の正妻だが、兄弟に誘われて元平城天皇で今は上皇になっていた上皇に薬子を近づけて上皇を誘惑するというお色気大作戦を展開していた。

この薬子はもう 43 歳でこの時代では初老だが上皇はこの薬子の濃厚な夜のサービスにメロメロになっていた。薬子の夫はこの上皇との不倫を知ってはいたが相手は上皇では知らんふりするしか手はなかったが、さらに薬子はそんな夫が邪魔で上皇に夫を太宰府に飛ばすように進言して夫の縄主は太宰府の長官に任命されたが、その赴任途中の下関で伝染病のために亡くなっていた。

従四位祈祷占い師卑弥呼狐は大極殿の大広間の舞台の四隅に青竹を立て、その間を注連縄で囲って祭場とした。この注連縄の中は神の領域でここに天から神の御告が降りてくる神聖な空間で祭壇には米、餅、魚から季節の物まで供えられてその両脇には真榊が飾られている。卑弥呼狐の占いは古代卑弥呼の時代の「亀卜」占いでこれは亀の甲羅の腹の部分の甲羅を火に炙り甲羅のひび割れた模様を卑弥呼狐が解読するという占いだった。

この大広間は左右の各部屋に囲まれているので正面には嘉智子皇后や正二位坂上田村麻呂など超高級貴族が座り、両脇の部屋には高級貴族が座っている。卑弥呼狐は人間の卑弥呼の衣装だが、顔は狐のままでその姿は伝説の卑弥呼と同じで頭には金の王冠、手には真榊で邪鬼を祓い神を呼び込む神秘で厳かな姿に皇后も手を合わせながら無の境地になっていた。やがて亀の甲羅が火に煽られてひび割れの音が「ボクボク」と聞こえてきた。この音から亀卜占いという。

卑弥呼狐は焼けた甲羅を正面に座る皇后から左右の席まで見せているが、この甲羅の卜形のひび割れだけではこの占いの意味は誰にも分からない、そこで卑弥呼狐は大きな声で、
「この宮廷の上には下関で疫病に感染して亡くなった従三位藤原縄主の怨霊と怨念がさま

よっています。いずれ宮中にもその病原菌がはびこるという占いの結果がでましたが、この縄主に恨みをかう人物をこの都から排除しなければ宮中どころか市中まで病原菌で汚染され死者が数万人もでます」

これを聞いた皇后はそもそも上皇と薬子の関係は知らなかったので占いの意味が分からないまま卑弥呼狐の加持祈祷占いは終わっていた。そこで田村麻呂と侍女頭から卑弥呼狐の占いの意味を聞いていた。それを聞いた皇后は激怒して薬子を上皇に差し出した薬子の兄の従四位藤原仲成を佐渡島へ島流しの刑、薬子を丹後の間人の尼寺に幽閉、そしてその黒幕の奈良仏教会の僧侶は比叡山の最澄と空海が唐国から帰って来るまでは都に入洛禁止という詔勅が出された。

これが歴史上の「薬子の変」の前段部分で後段 (8 話) にも卑弥呼狐の活躍になるが、もし、この卑弥呼狐の加持祈祷占いがなければ最澄、空海の居ないままに嵯峨天皇は失脚させられて上皇が第 53 代の天皇に復活、そして都は再び平城京になっていたことは確実になり現代の日本の歴史は卑弥呼狐が造ったことには間違いはない。

(第 8 話につづく)

この祈祷師卑弥呼狐が宮廷で行った亀卜 (きぼく) 占いの挿絵を書いて頂いたのは @fox2fox2fox2 (ツイッター) なっちどんさん、です。この絵描きさんはこの小説の 2 話〜7 話までの挿し絵を書いて頂きこの小説のファンの他にも挿し絵のファンも増えて絵描きさんと小説家のコラボが大成功した見本になります。8 話も卑弥呼狐が大活躍します。

正一位狐国稲荷神社 8 話 御嬢狐団十郎狐と結婚狐の嫁入り行列は宮中で 伏見稲荷大社の物語 97 話

正一位狐国稲荷神社 8 話 御嬢狐団十郎狐と結婚 狐の嫁入り行列は宮中で伏見稲荷大社の物語 97 話

狐が稲荷神社のお使いになったのは 711 年になるがそれより 400 年前には狐は邪馬台国の卑弥呼のお使いとなっていた。稲荷神社は当時湿地帯であった京都盆地の東山三十六峰の最後の山の伊奈利山になるが、邪馬台国はその真西の向日丘陵勝山の山裾 (元長岡京) にあり、ここからは東山から日が昇り西山に沈む地になるが、卑弥呼がこの地に邪馬台国を造った理由は眼下の京都盆地の湿地がやがて水が引いて日本の中心の都が築かれると卑弥呼の亀卜占いで占っていたからだ。

つまり、魏志倭人伝で伝わる邪馬台国の地は仮の地でやがて卑弥呼もこの京都盆地に都を築こうと思っていた。この卑弥呼の占いは 400 年間も受け継がれて平城京の桓武天皇は卑弥呼のようにこの邪馬台国跡に仮の都とするために長岡京へ引っ越しして京都盆地が湿地帯になった原因の鴨川右岸の堤防を築いてからこの地に都を築こうとしてその通りになっていた。

その卑弥呼はこれを実現出来ないまま死去して卑弥呼は勝山中腹にある元稲荷古墳に埋葬されていた。その後、卑弥呼の跡目争いで戦争になったが、その当事者 2 派は荒れた邪馬台国を捨てて一方は淀川を下り浪速の国へ、もう一方は奈良に落ちて後の大和政権を作っていた。

残された卑弥呼のお使いの狐はそのまま卑弥呼の墓の元稲荷古墳を守るための狐国稲荷神社を建立して 400 年になっていた。つまり、伏見稲荷大社は稲荷神社の総本宮とはなってはいるが、それは人間がお詣りする神社のことで稲荷神社全体ではこの狐国稲荷神社が元祖となり現在でも「元稲荷神社」「元稲荷古墳」となっている。

これは西山の狐の歴史だが、東山の狐は文化程度がかなり低く凶暴で人間そのものを敵としていた。そんな折に狐が棲む東山に稲荷神社が出来たものだから神社と狐は敵対関係になるが、宮司の伊呂具が怪我をした狐には消毒をして薬を塗る、病気の狐には薬草と鴨川で獲った鰻な鯉などを与えるなどをして 5 年後にはやっと東山の狐の女王の信頼を得ていた。

女王はシロギツネの白藤で西山の狐とはたえず縄張り争いをしてこれで死んだり怪我をする狐が絶えなかった。そこで伊呂具が仲裁に入ることになった。伊呂具は白藤に、
「西山の狐は農民とは協力共同で仲良く暮らしているが、東山の狐はなぜ?人間を敵視するのだ?」
白藤は、
「もうここ 100 年は原住民の加茂族や藤族に何万匹も殺され毛皮にされているのです。だから人間は敵になります」
「そか、それなら加茂族の上賀茂神社と藤族の藤森神社にはこの東山の狐は稲荷神社のお使いになったので今後一切狐を傷つけないという約束を取り付ければ白藤は人間と和解できるのか?」
「はい、私は宮司さんを信用していますから私たち東山の狐は稲荷神社のお使いになります」

伊呂具の仲裁で東山の狐と西山の狐は和解することになり稲荷神社でその調印式が執り行われていた。西山側からは卑弥呼狐とその息子の団十郎狐が参加、東山側からはこれも東山狐の女王の白藤とその娘の御嬢狐だった。この御嬢狐は母親の 52 代目の女王の跡継ぎに内定していたので東山狐界では「御嬢狐」と呼ばれていた。

この調印式の立会人は人間の伊呂具のために双方の狐は人間に化けていた。西山の団十郎狐は歌舞伎一座の座長で化け方も歌舞伎調でそれはそれはイイ男に化けていた。一方の白藤の娘の御嬢狐は母親似の色白美人でこれも女優顔負けの美形で団十郎狐は御嬢狐に一目惚れするのは間違いないと思っていた宮司が計画をした大作戦が見事に的中してこの 2 人の交際が始まっていた。

この団十郎と御嬢狐とのデートは深夜になるが、東山と西山は約 2 里離れているためにこの中間点の羅城門で会うことにしていた。この羅城門の二階は約 20 畳ほどの板の間で 10 体の仏像が安置されているが夜は誰もこないので 2 匹は朝まで愛を語り合っていた。
団十郎は御嬢狐に、
「私の父は正一位狐国稲荷神社の宮司で私が宮司を継ぐことを心から期待しているので御

嬢狐は嫁に来てほしいと一歩も譲りません」
「そうなの～私の父も母親の 57 代目東山狐の女王白藤を私に継がすので団十郎さんを養子に迎えるのが筋だと一歩も譲りません」
「俺たち狐は母親からは平均すれば 3～4 匹は生まれる、それも 5 年間ぐらい毎年もだから兄弟は 15 匹以上もいるのに長男が後を継ぐものだと信じ切っている」
「そうよ～私もたまたま長女に生まれてきたから女王になるのは当然だと東山の長老狐も一歩も譲らないの...」
「俺たちは西山の狐と東山の狐が和解するための道具として愛し合っているのではなく俺は御嬢狐を心から愛しているので結婚したいだけで名誉や金は欲しくはない」
「団十郎さん～私もです～」

「それに私は神社の宮司より折角立ち上げた歌舞伎団十郎一座の座長として全国の狐国稲荷神社を巡り興行したい。もう、若狭の国から佐渡島の稲荷神社までの 5 神社の舞台は決まっている」
「そうでしたの～それなら私も団十郎一座の座員にして下さい、私は団十郎さんとだったら地球の果まで付いて行きます」
「御嬢狐ありがとう～しかし、お母さんの白藤さんにはどういう説得をするの?」
「はい、昨夜お母さんと朝まで話し合ってやっと私が正一位狐国稲荷神社に嫁ぐことを許して頂きました」
「しかし、それは次期宮司の私に嫁ぐことで団十郎一座の座長の私に嫁ぐことではないが...どうする?」
「はい、それは一応正一位狐国稲荷神社に嫁いでから考えましょう、それに嫁いだらもう御嬢狐ではないので白菊と呼んで下さい」
「そか白菊、嫁いでしまえばどうにでもなると言うのか?...白菊」
「はい、この時代ですから女は賢くしたたかに生きなければ幸せは向こうからは歩いては来てくれません」

こうして二人の結婚式は 5 月 1 日の早朝の 1 時に花嫁は団十郎との想い出の羅城門まで親族と歩き新郎側は羅城門まで迎えに来てここでドッキングして媒酌人の正一位伏見稲荷大社の宮司ご夫妻を先頭に花嫁、花婿が次に続きここからが狐界の仕来りの狐の嫁入りの行列になる。そして向日神社で結婚式を挙げることになっていた。

そのことを従四位卑弥呼狐から報告を受けた従三位動物愛護大臣藤原信照はこのことを嘉智子皇后に報告するかを悩んでいた。そもそも嘉智子皇后が信頼する加持祈祷師の卑弥呼狐の長男が花婿の団十郎でこの団十郎は小狐の頃と大人になってからも皇后に大極殿で芸を披露していた関係にもなる。さらに媒酌人の宮司ご夫婦は嵯峨天皇の信頼出来る加持祈祷師という関係からも信照が皇后にこのことを報告するのは当然になるがためらっていた。

そこで信照は正二位攘夷大将軍坂上田村麻呂に相談していた、田村麻呂は、
「あの皇后の性格ではまた「狐の嫁入り行列」を見たいとダダをこねるに違いないが、そんな深夜に皇后を警備することはまったく出来ない。さりとて報告しなかったら皇后に激怒されて信照は確実に地方に左遷される」
「そこなんですよ〜田村麻呂さま」
「信照...お主も動物愛護大臣で愛妾に狐の月光を囲っているのだったら何かを考えろ!」

信照は困り果てて愛妾の月光に相談していると月光は、
「そんなの簡単よ...信照さま、まず、花嫁と花婿のドッキングを大極殿にすればそこからが狐の嫁入リ行列ですのでそして宮中の大極殿門から朱雀門までの約 100 ㍍を行列して皇后さまに見てもらえば宮中だから警備の必要はそんなにありませんのことよ!」
「おぉぉぉ〜でかした月光...それで行く」

東山の花嫁と西山の花婿は予定通り 1 時にそれぞれ出発して 2 時には大極殿の控室に入り花嫁も花婿、それに卑弥呼狐に白藤まで花嫁行列に参加する狐の全員がまず人間に化けてから衣装の着付けをしてもらっていた。花嫁の御嬢狐は文金高島田に綿帽子、白無垢の花嫁衣装で大極殿の東側から、新郎の団十郎は羽織袴姿で西側から登場して大極殿前広場でドッキングして花嫁の母の白藤が御嬢狐の手を引いて団十郎に引き渡すという感動的な儀式にこれを見ていた気のきつい皇后も人の子で涙してこの二人を祝福していた。

そして媒酌人の宮司夫婦を先頭に花嫁花婿、正一位狐国稲荷神社の宮司夫妻、白藤夫婦の順の総勢の 40 名の「狐の嫁入り行列」が大極殿から出発していた。その花嫁行列が朱雀門から出るとそこは幅 80 ㍍の朱雀大路になるが、その朱雀大路〜羅城門までの約 3 キロには全国から御嬢狐と団十郎狐を祝福しようと都大路の両脇に集まり、それぞれの狐の口にはお祝いの狐火を咥えていた。

この狐火は狐の餌である小動物の肉を食べたあとの骨を土の中に埋める習性があるが、これはもし飢饉になった時に骨の中の髄を食べる非常食にもなっていた。その骨を土に埋まると燐 (リン) が発生してその骨を狐が掘り出すと空気に触れて酸化して青白く光る。その光を放った骨を口に咥えて深夜に花婿、花嫁の足元を照らすという狐界最大の祝福であった。

(9 話につづく)

(この小説を漫画の原作にしていただける漫画家さんを募集しています。挿絵の御嬢狐 2 点は、姉姉@un84z (ツイッター) さんの作品です。また、この小説の中に出てくるだろう

と思う変わり狐の挿し絵の絵を描いて絵描きさんを募集しています。私はその絵から話を起こして小説にいたします)

正一位狐国稲荷神社 9 話狐の月光と人間の貴族の間に生まれた「かぐや姫」・新竹取物語伏見稲荷大社の物語 98 話

正一位狐国稲荷神社 9 話狐の月光と人間の貴族の間に生まれた「かぐや姫」・新竹取物語伏見稲荷大社の物語 98 話

向日神社建立の責任者で従三位動物愛護大臣藤原信照は正一位狐国稲荷神社の女王で祈祷師の卑弥呼の妹の月光を愛妾 (6 話) にして京の都の三条に屋敷を建てて囲っていたが、その月光が信照の子を宿っていた。それを聞いた信照は多いに喜んではいたが、その生まれてくる子供の姿は果たして月光似、つまり狐か?それとも信照似、つまり人間かは誰も予想は出来なかった。そもそも、人間と女狐との間に恋愛感情が生まれたとしても狐が人間の子供を宿るというのは前列がなかった。

そこで信照はやはり月光のお産は月光の実家の正一位狐国稲荷神社が良いだろうと月光の姉でもある卑弥呼にお願いしていた。この実家といってもこの狐の棲家は地下の真っ暗な穴になるが、月光の産んだ子供が狐ならこの地下で他の狐のように育てられるが、もし、人間を産んだならこの地下では育てられない。それは人間の赤ん坊は成長が早くて大きくなるので穴からは出られなくなる心配があった。

取り敢えずはお産は向日神社の地下にある稲荷神社ですることとなった。やがて月光はまるまる太った人間の女の子を産んだが、狐の産婆はどこかに狐の印、つまり尻尾がないか?耳はと探した。これはどこにも狐の印はなくすべて人間だったが一つだけ気になることがあった。

それはこの月光の父母はギンギツネだが、この血を受け継いたのか?産まれた赤ちゃんの背中にはピカピカ光る銀色のうぶ毛がびっしり生えていてそれが薄暗い部屋の中でも光輝いていた。

これを見た月光は思わず、
「まあ～綺麗で可愛い～この信照さまの姫の名前は銀色に光輝く「かぐや姫」と命名いたします」

このかぐや姫誕生はすぐさま信照の耳に入りすぐに朝廷へ姫誕生の届けを提出していた。これは高級貴族の藤原氏、橘氏 (嵯峨天皇皇后) などの特権で正妻には夫の官位の一つ下の官位、その子供が 18 歳になれば正妻、愛妾の子の区別はなく二つ下の官位が与えられていた。

つまり、この月光の産んだかぐや姫は藤原氏で信照が従三位だから従四位の高級貴族になり年に現在の価値で約 8000 万〜1 億円程度の官位米が支給される。(この金で格式ある高級貴族の教養、衣装費用、また屋敷の維持費や主を世話する侍女、下女、下男の給金。さらに屋敷を守る私兵まで雇わなくてはならないので金には苦労はしていたが、ここに貴族の特権で朝廷に出入りしている商人との癒着で賄賂政治が横行していた)

このかぐや姫は人間の為にすぐに穴から出して人間の手で育てなくてはならないが、月光の屋敷は月光を世話する侍女もすべて狐のためにかぐや姫を月光の屋敷で育てることは不可能になる。そこで信照は卑弥呼にどうすれば良いのかを祈祷で占ってもらうことになった。

卑弥呼は早速我が姪のかぐや姫が育つ場所を卑弥呼得意の亀卜占いをしていた。亀卜占いは護摩木で亀の腹の甲羅を焼いてその甲羅が割れるボクボクという音と割れた模様で吉兆を占うが、卑弥呼の占いの結果は、
「この向日丘陵の北の西ノ岡に桓武天皇皇后の高畠陵があるが、その御陵を守る墓守にかぐや姫の育児を託せと出ました」

卑弥呼が占いで選んだ墓守は竹取の老夫婦でもう 70 代で妻と二人で朝廷から委託を受けて墓守をしている。この皇后の墓は直径約 65 メートル、高さ約 7 メートルの円形で竹の垣根で周囲とは遮断されているが、この御陵は真竹に囲まれているために竹の地下茎が御陵に侵入して放って置けば約 3 年でこの御陵を竹林が占有してしまうために地下から出てきた竹の子とその地下茎が皇后の墓所に侵入しないように茎を取るのが仕事なので竹取と呼ばれていた。

このかぐや姫が生まれたということと卑弥呼のお告げてかぐや姫は竹取に育てられるという事まですべて信照に知らされていた。そして信照は貴族の女性の官女、侍女の中からかぐや姫に乳を与える乳母を探していた。さらにかぐや姫の産着から寝具までと乳母と侍女 3 人を御所車に詰め込んで深夜であったが皇后の墓守の小屋まで運んでいた。

この墓守の小屋は小屋であって部屋も二部屋しかなく従四位藤原かぐや姫の住まいとしては耐え難いと信照は思い御陵の西側の竹藪を伐採してかぐや姫に相応しい西ノ岡屋

敷を一ヶ月以内に作れと宮大工の棟梁に頭を下げるが、この棟梁は向日神社の建立した棟梁でこの信照とは親しく信照の願いを二つ返事で引き受けていた。

この乙訓地域では生まれた赤ちゃんを河川敷や竹藪に一度捨てて赤ちゃんが腹を空かして泣くのを聞いた人が持ち帰り育てれば元気な子供に育つという風習があった。そこで月光が生まれたてのかぐや姫を抱いて竹取の小屋の近くの竹藪にかぐや姫を捨てていた。そしてその泣き声を聞いた竹取夫婦が見つけてこの夫婦が育てるという儀式は無事に終わっていた。

そして一ヶ月後には檜の香りの豪華な西ノ岡屋敷が出来ていた。この屋敷の主人は建前上は竹取でこの夫婦の着る着物も屋敷に相応しい絹の着物ばかりか毎日 3 食の食事もかぐや姫の侍女 10 人が作るのでかなり太り貫禄も付いてきたので爺のことを竹取翁 (たけとりのおきな) と呼ばれれるようになっていた。

そのかぐや姫は狐の血をひいているのか成長が人間の 5 倍ほどのスピードで生まれて 3 ヶ月で歩いていた。そして 3 歳ではもう生理が始まり人間で言えば 15 歳ぐらいの姫に成長したが、その姿は生まれたときと同じように光輝き色白で人間とは思えない可愛さと愛くるしい笑顔は毎日世話をしている侍女でさえ胸が締め付けられるほど魅力のある姫に成長していた。

そのかぐや姫の噂は朝廷の高級貴族にまで知れ渡りこのかぐや姫を一目見ようと連日西ノ岡屋敷の前には貴族の行列が出来ていた、その貴族の対応にはこの屋敷の主人である竹取翁が対応していた。

つまり、貴族たちがかぐや姫を一目見ようとすればこの竹取翁を買収しなければならない。最初はこの買収額は銀 1 枚程度だったが、この銀を貰った竹取翁はかぐや姫が高級貴族の教養として読み書きや和歌、琴や龍笛などの勉強をその道の学者や専門家に指導されていた。その部屋の前の中庭へ案内してほんの数秒間だけ貴族にかぐや姫の姿を見せていた。その買収額も一目銀 10 枚と跳ね上がっていた。

その光輝くかぐや姫を見た貴族はどの貴族も胸が締め付けられる程一目惚れをしていた。だが、かぐや姫の父親は従三位の超高級貴族でこれより官位が下の貴族にはかぐや姫を嫁にくれという話も出来ない階級社会だった、そうなると可能性があるのは従三位の同等かそれより上の官位の超高級貴族になるが、かぐや姫はその父の信照からの超高級貴族からの見合いの話をことごとく断っていた。

かぐや姫の母の月光は月に一度は西ノ岡屋敷まで御所車に揺られて可愛い娘に会いに

来ていたが、かぐや姫の母としてかぐや姫の出世の秘密を話す機会を探っていたが、かぐや姫の方から話を持ち出して来た、かぐや姫は、
「私はまだ生まれて 3 年ほどだが、他の人とは成長が 5 倍ほど早いのは?と聞いてきた」
　月光は今がチャンスだと実は私は狐で信照さまの前や人間の前では人間に化けている。そしてかぐや姫も狐の血をひいているので 1 年で人間の 4〜5 倍の年をとります。だから 3 歳のかぐや姫はもう人間の 15 歳ほどに成長しているのです。

　これを聞いたかぐや姫はさほど驚かず、これは私も薄々知っていましたというので月光は少しは安心していた。さらに月光は私も狐年の 3 歳で信照さまの愛妾になりもう 5 年です。つまり、狐の平均年齢は約 10 年ですから私は狐年ではもう老婆になりますが、なんとか信照さまの前では若く化けてはいますがもう限界で私は信照さまとお別れして実家の正一位狐国稲荷神社へ戻ります。

　この話を母親から聞いたかぐや姫は、
私も母のように人間の 5 倍年を取るのなら人間とは結婚出来ないと嫁にほしいという超貴族との婚礼の話をすべて断っていた理由がここにあった。
　それから半年ぼど経ったある日、従二位攘夷大将軍坂上田村麻呂が嵯峨天皇が母親の陵墓にお参りに来るというので警備の下調べで高畠陵を視察しに来た。その田村麻呂がふと馬の上から墳墓の上部を見るとそこには竹の子が数本生えていた。これにびっくりした田村麻呂は皇后が眠る陵墓の石棺を見るとその石棺には竹の茎が絡まっていた。

　これに激怒した田村麻呂は墓守で竹取夫婦を手打ちすると二人を並ばしたが、部下の武将がここは聖地ですからと諌めた。すると田村麻呂はこの夫婦を佐渡島に島流しの刑に処すると命令した。夫婦は仕方なく旅支度をして西ノ岡屋敷を出ようとしたが、田村麻呂に呼び止められて背中の竹の籠を見せろと言われて見せるが、そこには高級貴族からかぐや姫を見せるための賄賂の銀が約 300 枚入っていたが、当然ながら全額没収されて田村麻呂の臨時収入になっていた。

　田村麻呂は嵯峨天皇の休憩場所に西ノ岡屋敷を借りたいと申し入れ屋敷の中に入ったが、そこにいたのはかぐや姫で田村麻呂も一目見ただけで胸がキュンとなるほど光輝く美女が田村麻呂に丁寧に頭を下げて挨拶している。そして田村麻呂は、
「姫が宮廷の若い貴族が噂しているかぐや姫か?」
「はい、私は従三位動物大臣藤原信照の娘でかぐや姫と申します」
「そかそか、なんていうか...嵯峨天皇の好みの姫になるのであの天皇はかぐや姫を見てすぐに持ち帰ると言いますのでそこは心してお待ち下さい」

この田村麻呂のいう意味は嵯峨天皇の愛妾に選ばれるということでこの時代の女性ではシンデレラ以上に名誉なことでかぐや姫お付きの侍女たちもおめでとうございますと姫を祝福していた。

これを聞いたかぐや姫はすぐに母の月光を訪ねて正一位狐国稲荷神社へと向かった。月光と叔母の卑弥呼は人間に化けて向日神社の部屋を借りて相談していた。かぐや姫は、

「私が狐の血をひいて成長が人間の5倍なんていうのは誰も信じませんし、私はそんな人間の天皇だとしても抱かれるのは嫌です」

「てもね～この国で天皇に逆らうことは処刑されると同じ意味になります」

「それでも嫌です」

そこで卑弥呼が、

「それならかぐや姫は元々月からの使者で任務が終わったので月に帰ったというのも少々嘘っぽいからダメよね?」

そこで月光が、

「それなら私が信照さまからお暇をもらったようにかぐや姫は狐なのである日突然満月の夜に狐に先祖返りして狐の姿に戻って今は狐国稲荷神社にいますといえばいくら天皇でも狐の穴を掘ってかぐや姫を探すことはないと思うが...」

これに一同賛同して月光がこのことを手紙に書いて信照に送ると信照はこのことを知っているので田村麻呂に丁寧に説明してなんとか了解を得ていた。

正一位狐国稲荷神社

著　　音川伊奈利

制　作　Puboo
発行所　デザインエッグ株式会社